

.

北麓から見上げる春の浅間山は、まだ冬の名残をとどめながらも、確実に季節の移ろいを語りかけてきます。とりわけ山頂付近の残雪は、毎年さまざまな形を描き、その年ならではの表情を見せてくれます。火口壁の右下には、例年、上から順に「1」「2」、そして「おぼけ」と読めるような雪形が現れます。地元ではこの最下部の形を「逆さ馬」と呼ぶそうですが、私の目にはどうしても、手を広げたおぼけの姿に見えてしまいます。

ところが今年は雪解けの進み方が早く、「1」も「2」も、そしておぼけも輪郭を失い、崩れたような形になってしまいました。整った雪形ではないものの、その崩れ方にこそ春の勢いが感じられます。こうした変化が見られるころ、山麓にもようやく本格的な春が訪れるのです。

(2026年4月中旬／群馬県嬭恋村／東京から遠隔観測)

